

子育て環境の充実に関する特別委員会 管内調査
令和3年11月15日（月）～16日（火）

1 長岡京市三つ和母子会〔於：バンブーガーデン〕（長岡京市）

【調査事項】

ひとり親家庭のこどもの居場所づくり事業について

【調査目的】

ひとり親家庭の居場所づくり事業を実施している三つ和母子会の活動について調査し、ひとり親家庭の現状や必要な支援、課題などに係る委員会活動の参考とする。

【調査内容】

長岡京市三つ和母子会では、バンブーガーデンを含め市内3か所でひとり親家庭のこどもの居場所づくり事業を行っている。当初夏休み等の短期型として活動していたが、保護者からの声を受け、通年型の活動を検討。市社会福祉協議会の仲介により、居場所の提供を希望していた市民に自宅の一部を開放してもらい、平成28年からバンブーガーデンで毎週金曜日に事業を開始した。基本的に送迎は行わないが必要な場合には対応している。コロナ禍以前は地域の高齢者にスタッフとして関わってもらうことでの世代間交流や、フードバンクを活用した食事作り、誕生日会などの食を通じた支援のほか、夏休みなどの長期休暇期間は10時から19時に時間を拡大し、パステル画講座など保護者も一緒に楽しめるような取組を行ってきた。

新型コロナウイルス感染症の影響により一時活動を休止していたが、現在はバンブーガーデンでの読み聞かせを月に1回再開。アイリスガーデンでは、外国人スタッフによる個別の英語教室や、大学生になった会員の子どもによる中学生の学習支援を行っている。また直接交流が難しい中で子どもやスタッフからメッセージを集め、絵本「Wa つなぐ PART3」を作成するなど、工夫しながら活動を継続している。

関わってくれる学生スタッフが就職等で活動が難しくなることもあり、人材の確保や継続性が課題となっている。また支援を必要としているひとり親家庭に対して、どのように活動を周知していくかが課題であるとのことであった。

【主な質問事項】

- ・居場所の決定過程について
- ・参加登録者と一回の参加人数について
- ・府・長岡京市との連携について
- ・大学等との連携、スタッフ確保について など



活動場所にて調査事項を聴取

2 宇治児童相談所（宇治市）

【調査事項】

宇治児童相談所の現状について

【調査目的】

児童虐待をはじめ、児童・家庭福祉において中核的な役割を果たす児童相談所について府内の状況や設備等について調査する。

【調査内容】

京都府内児童相談所（家庭支援総合センター、宇治児童相談所、福知山児童相談所）における令和2年度の児童の虐待相談受理件数は、前年度より99件少ない2,448件である。通告経路の内訳としては例年同様、警察からの通告が過半数以上を占めている。また虐待種別では例年と同じく心理的虐待が過半数以上を占め、次いで身体的虐待、ネグレクトが多い傾向となっている。上半期はほぼ横ばいだったが、下半期に入り、子どもの面前での暴力といった警察等からの心理的虐待通告が減少した。

昭和62年に設置された宇治児童相談所（南部家庭支援センター）では総合相談、児童に関する専門相談に対応するほか、担当地域における女性に関する相談に婦人相談員が対応している。宇治児童相談所の管内人口は府内児童相談所の中で最も多く、令和2年度における虐待通告の受理件数は全体の51%にあたる1,262件である。

担当地域のうち、宇治市、城陽市、久御山町の児童に関する専門相談を受け付けている宇治児童相談所（本所）には、必要に応じて子どもを一時保護する一時保護所が併設されており、居室数は5室、定員は13名であるが、近年では個室対応が原則となっているとのことであった。八幡市、京田辺市、木津川市、井手町、宇治田原町、笠置町、和束町、精華町、南山城村の児童に関する相談については京田辺支所で受け付けており、本所と同数の児童福祉司やその他専門職が配置され、児童に関する専門相談に対応しているとのことであった。

【主な質問事項】

- ・一時保護所の運営について
- ・コロナ禍の影響について
- ・児童虐待通告の経路について
- ・児童虐待の予防・再発防止について など



調査事項を聴取

3 舞鶴市議会（舞鶴市）

【調査事項】

舞鶴市における地域子育て拠点について

【調査目的】

子育てを取り巻く環境が変化する中で、子育て親子の交流や子育ての相談、情報提供の重要性が高まっている。「あそび」をテーマに親と子がともに過ごす場を提供する子育て交流施設「あそびあむ」を設置する舞鶴市の取組を調査し、子育て支援に係る委員会活動の参考とする。

【調査内容】

舞鶴市では孤立予防と虐待の未然防止に向け、子育て支援に取り組んでいる。子育て不安を抱える保護者の増加や子育て力・家庭力の低下が懸念される中、幅広い年齢の子どもたちが天候に左右されず、室内でものびのびと体を動かして遊べる場所がほしいという市民からの要望を背景に平成 27 年に開設されたのが子育て交流施設「あそびあむ」である。市民へのアンケートや関係団体へのヒアリング、実証実験などを経て開設された自然と一体となった全天候型の安全な遊びの施設、市民参画による豊かな遊びをとおした学び・育ち・交流の施設で、プロセスを重視した事業を展開している。土日を含め週に 6 日開館しており、市外在住者の利用も多い。コロナ禍以前は年間で 7 万人、1 日あたりの利用者数は平均で平日 160 人前後、土日 300～400 人、最高では 700 人と多くの利用があった。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、令和 2 年 3 月は利用を市民に限定。令和 2 年度は 4～5 月閉館、6～9 月は市民限定・人数制限、10 月以降は人数を制限し、年間利用者数は 35,200 人であった。令和 3 年度もあまり大きな変化はないが 52,000 人程度になる見込みである。

今後はあそびあむの管理運営や「あそびの充実事業」を NPO 法人に委託するなど、子育てにやさしいまちづくり事業のモデル事業の一環として ICT を活用した次世代型子育て支援サービス、食育共食推進事業などの取組とあわせ持続可能な運営に向けた取組を展開していく予定であるとのことであった。

【主な質問事項】

- ・つどいの広場利用者の年齢層について
- ・あそびあむ利用者の内訳（年齢層・市外利用者）等について
- ・子育て拠点での相談について
- ・学生や NPO との連携について など



調査事項を聴取



施設を見学

4 福知山市議会（福知山市）

【調査事項】

福知山市における妊産婦・子育てに対する支援について

【調査目的】

平成 25～29 年の合計特殊出生率が 2.02 と府内 1 位、全国的にみても 33 位と高位に位置している福知山市における妊産婦・子育てに対する支援について調査し、子育て環境の充実に係る委員会活動の参考とする。

【調査内容】

福知山市では、令和 2 年に「第 2 期福知山子ども・子育て支援事業計画」を策定し、「安心して暮らせるまち福知山」を目指したまちづくりを進めている。令和 2 年度に子育て世代としたアンケートで「子育てをする上で気に入っているところ」として 1 位「すべてが近い」、2 位「医療が充実している」／「近くに家族がいる」に続く 4 位は「子育て世代が多く、情報交換や悩み相談ができる」で、地域子育て支援ひろば「すくすくひろば」や「子育てコンシェルジュ」が地域とのつながりを持つきっかけとなっているとのことであった。また子育て支援施設の充実（5 位）、相談サービスの充実（11 位）など子育て支援施策に関する項目が複数挙げられている。

福知山市では、平成 30 年に機構改革を行い母子保健、子育て支援、幼稚園関係の 3 つの子ども・子育てに関する部署を「子ども政策室」として 1 つに集約した。専門職を一つの部署に配置したことで情報共有をしやすくなったほか、「子育て総合相談窓口」で子育て支援制度に係る各種手続きや子育てに関する相談を一括して受け付け、内容に応じた対応をすることができ、市民にとっての利便性が向上している。また、近隣市より高い助成率を維持し、経済的支援を充実させている不妊治療助成金の受け付けや母子手帳の交付は専門職が担い、必要な支援につなげているほか、支援が必要な場合には多職種の専門家が関わり切れ目のない支援を行っているとのことであった。

【主な質問事項】

- ・子育て関連窓口を一つに集約したことで得られた利点について
- ・子育て世代を対象としたアンケートの今後の実施方針について
- ・市街地と周辺部の子育て世帯の状況の違いについて
- ・子ども時代からコミュニティへの愛着をはぐくむ取組について など



調査事項を聴取